

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	薬学基礎 I		(TCM111)
講義名（コード）	TCM_薬学基礎 I		(TCM111)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	日中医療通訳コース	単位数	2
授業担当者	ホイ リキ ニコル	時間数	30
成績評価教員	ホイ リキ ニコル	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本講義は、関連分野で活躍した講師による授業である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	医薬品に関する全般的な知識を修得し、日本の病院、薬局での医薬品使用実態を理解する。現場にて医師、医療者の医薬品説明を理解し、医療通訳者として患者に正確に伝える能力を修得する。
全体の内容と概要	講義と演習・模擬通訳を組み合わせ、受け身で講義を聴くだけでなく、毎回生徒に参加、発言させる。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	日本医薬品登録者試験ご説明 医薬品の定義・リスク評価方法	講義 医薬品登録者試験の解説・医薬品の概論
2	薬は体内でたどるルート	講義 医薬品の働き仕組み
3	剤形ごとの違い 適切な使用方法	講義 薬剤形分類・副作用の定義・原因
4	副作用等に対する基本的な考え方	講義 プラセボ効果・薬害の歴史
5	人体各器官の機能を理解する	講義 人体の構造と働き・消化器系
6	人体各器官の機能を理解する	講義 人体の構造と働き・呼吸器系
7	人体各器官の機能を理解する	講義 人体の構造と働き・循環系
8	人体各器官の機能を理解する	講義 人体の構造と働き・泌尿器系
9	人体各器官の機能を理解する	講義 人体の構造と働き・目・耳・鼻などの感覚器官
10	人体各器官の機能を理解する	講義 人体の構造と働き・皮膚・骨格系
11	人体各器官の機能を理解する	講義 人体の構造と働き・脳と神経系
12	医薬品の副作用が人体にどのように影響することが理解する。	講義 症状から見た副作用（全身的に現れる副作用）
13	まとめて復習	講義 前期講義の復習、テスト準備解説
14	テスト解説	テスト
15	テスト解説	テスト解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	「医薬品登録販売者試験テキスト&要点整理」 薬事日報社
参考文献・資料等	
備考	